

第20回 アジア競技大会選手村 後利用基本構想

概要版

令和2(2020)年3月
愛知県・名古屋市



GO ACTIVE

GO ASIA

GO GREEN

GO FUN

GO FUTURE



2 骨格的な道路の配置とネットワーク整備

計画予定地への民間開発の誘導、及び開発に伴い発生する交通を処理するために、東海通と環状線に接続する骨格的な道路を配置します。
また、計画予定地の東西を結ぶ、緑や歩行空間のネットワークを配置します。

3 憩いの空間や防災機能の導入

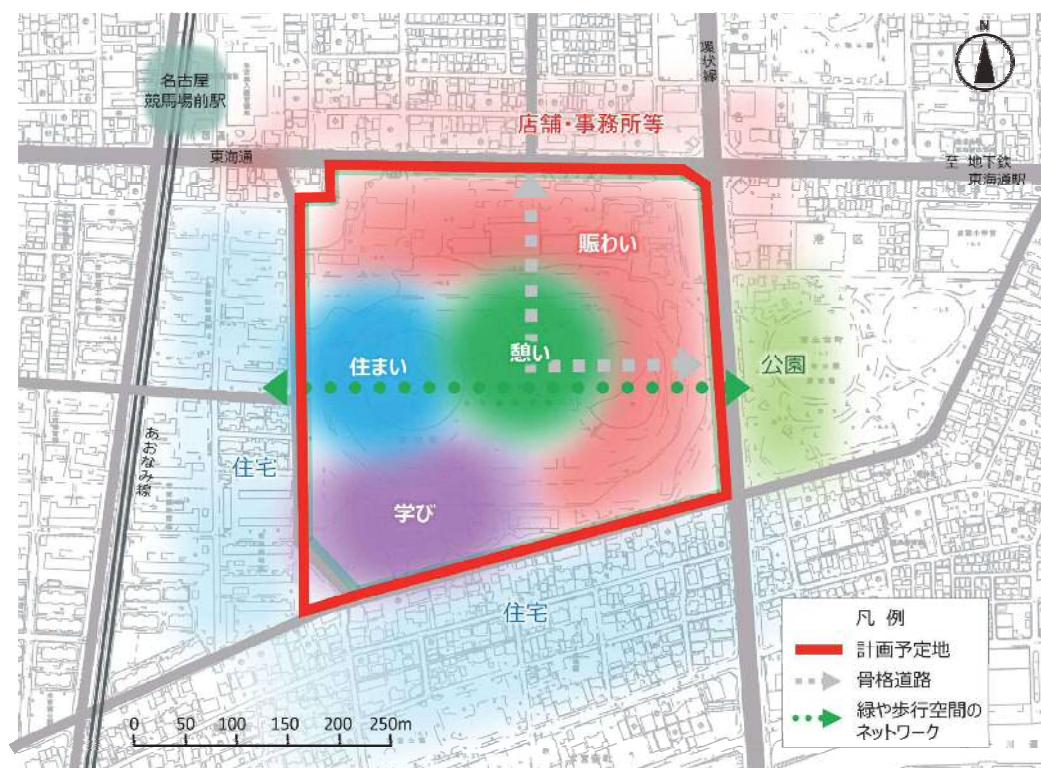
計画予定地の中心には公園を配置するなど、憩いの空間及び災害時の防災機能を兼ね備えたオープンスペースを効果的に配置します。

4 雨水貯留施設の設置

豪雨時の周辺の浸水被害状況を踏まえて、地域の状況に応じた雨水貯留施設を設置します。具体的には、既存公共下水施設の配置や処理能力を考慮し、計画予定地内に設置する公共空間の下に施設を配置します。

2 施設の配置イメージ

「安心と交流を生み出す次世代拠点」の実現に向けて、導入を期待する機能のゾーニング案を以下の通り想定します。また、ゾーニングの設定にあたっては、計画予定地周辺の既成市街地との親和性も考慮します。



土地利用イメージ

3

街のイメージ

1 脳わいゾーン

子どもから高齢者まで幅広い世代の方が買い物や食事を楽しむ空間が生まれ、雇用創出や来街者の増加による脳わいの創出が期待されます。

また、気軽にスポーツができる公園と一体となったイベントスペースや体育館といった機能の導入や、これらの施設を活用した脳わいを創出するエンターテイメントの誘致なども考えられます。

これらにより、子どもから高齢者、障害がある人も誰もがスポーツを楽しみ交流できるようになるほか、最先端のスポーツを体感できるような活気あるまちとなることが期待されます。



脳わいゾーンの施設イメージ

2 学びゾーン



海外の有能な人材を獲得・育成するため、大学等と連携し、留学生宿舎を整備することが考えられます。さらに、グローバル社員教育を重視する企業と連携し、若手社員の社宅とすることも考えられます。

このほか、研修・宿泊施設が整備されることで、宿泊を伴う様々な研修や体験イベントの実施、スポーツ合宿での利用が考えられるほか、地域住民や留学生、社宅に暮らす方々の交流や生涯学習の場としての活用などが考えられます。

また、私立の学校施設等が整備され、計画予定地内の関連施設と連携して独自性のある教育環境が整うことで、未来を担う人材が育成されることが期待されます。例えば、学生が企画したイベントが公園や商業施設等で開催されるなどの利用も考えられます。



学びゾーンの施設イメージ

3 憩いゾーン

来訪者や住む人の憩いの場となる公園や広場などの整備により、にぎわいと新たな地域ブランドの創出に向けた活用や、緑が本来持つさまざまな機能（ヒートアイランド現象の緩和など）が期待されます。

また、隣接する土古公園も含めたジョギングコースなどの設置や、バーベキュー・デイキャンプ、アスレチック等ができる場として整備・運営することも考えられます。

さらに、整備される公園や広場を、災害時の避難場所等としても活用できるようにするほか、消防団や住民等が連携し、防災に関するイベントなどが定期的に開催される場となることも考えられます。



憩いゾーンの施設イメージ

4 住まいゾーン

最先端の環境技術や情報技術が導入された質の高い住宅（スマートハウス）が導入されることで、誰もが安心していきいきと過ごし、多世代が交流する、良質な住環境の形成が期待されます。

またその結果、新しいライフスタイルの実現や、エネルギー効率が高く環境に配慮した暮らしが実現することで、関係するSDGsの達成に貢献することも期待されます。



住まいゾーンの施設イメージ

2 選手村整備事業との連携

1 選手村に必要となる施設

メイン選手村に必要な主な機能として、以下の内容を想定しています。

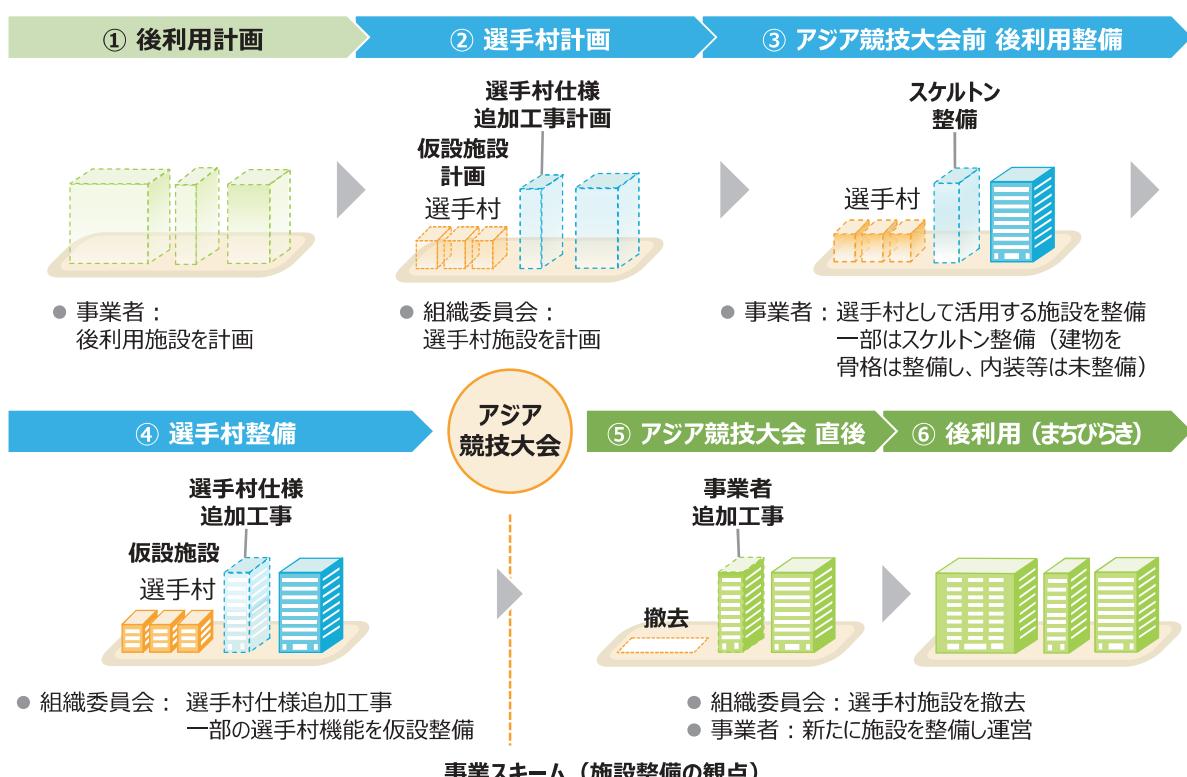
- 選手・チーム役員約1万人を収容できる宿泊機能
 - その他、選手の滞在を支援する施設、選手や物資の輸送に関する施設など
- 今後、組織委員会において、選手村に必要となる機能を整理します。

2 選手村整備のイメージ

後利用施設について、選手村施設としてそのまま活用する、部分的に活用する、選手村施設として活用せずに大会後に整備するという3種類の施設が考えられます。

例えば、選手村施設として活用できる、集合住宅（分譲、賃貸）、商業施設、学校施設などを、組織委員会が民間事業者から借りりことなどが考えられます。

また、大会時に使用された仮設建築物を大会後に再利用することも考えられます。



第18回アジア競技大会選手村宿泊施設の例



第18回アジア競技大会選手村食堂施設の例

3

まち全体での取組

1 防災・減災の取組

南海トラフ巨大地震や計画規模をはるかに超える豪雨などの大規模災害が発生した場合に備え、県市が担うハード面の整備だけでなく、日頃から災害に備え、発災時に対応できるよう、防災啓発活動や地域特性に応じた防災対策の推進などを通じて「自助・共助」による地域防災力の向上が期待されます。

防災・減災に資する施設の整備

- 雨水貯留施設の設置
- 広域避難場所となるオープンスペースの配置
- 整備される施設の活用



地域における防災活動のイメージ

防災意識や災害対応力の向上

防災意識向上をはかり、災害に対する備えを促進するため、事業者や地域住民などによる防災事業の実施が期待されます。

2

景観形成の取組

地域のブランド価値を高めるために、良好な景観形成を図ります。

都市景観（街並み形成）の目標設定

- 計画予定地のスケールを活かしたシンボリックな景観形成
- 周辺地域や環境との調和、景観の連続性、空間の開放性、機能の複合性
- 縁豊かな空間形成



統一感のある外観デザインのイメージ（事例：大阪城公園）

統一感のある外観デザイン

計画予定地での新たなシンボリックな景観形成と調和し、統一感のある建物等の外観デザインを形成します。

